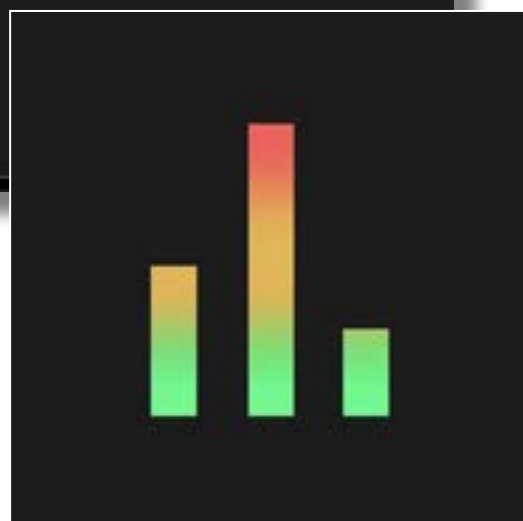


Focusrite Control

ユーザーガイド (Clarett+ 版)



Focusrite®
focusrite.

目次

はじめに	3
システム要件.....	3
ソフトウェアのインストール	4
Clarett+ ミキサー – 基本原則.....	5
OUTPUT ROUTING ページ.....	6
ミキサーの構成とコントロール.....	7
Output セクション.....	8
Input セクション	11
Clarett+ シリーズで使用できるハードウェア入力.....	14
プリセットの使用.....	16
Direct Routing	16
2 Channel Analogue	19
8 Channel Analogue	20
Digital	21
Empty	21
使用例.....	22
レコーディングとトラックング.....	22
レコーディングとオーバーダビング.....	23
スタンドアロンのミキサーとしての使用	24
スナップショット機能.....	25
INPUT SETTINGS ページ	26
Air	26
Inst/Line.....	26
DEVICE SETTINGS.....	27
サンプルレート.....	28
クロックソース	28
S/PDIFソース	29
モニターコントロール	29
iPhone & iPad用FOCUSRITE CONTROLアプリの設定	30
Inputs セクション.....	31
Outputs セクション.....	31
Monitor Control セクション.....	31
トラブルシューティング	32
著作権表示と法定通知.....	32

はじめに

本書はFocusrite Controlのユーザーガイドです。Focusrite Controlは、オーディオインターフェースFocusrite Clarett+シリーズと併用するために開発されたソフトウェアです。

Clarett+インターフェースの使用には、本ユーザーガイドの他、Clarett+製品のユーザーガイドが必要となります。製品ユーザーガイドは、focusrite.com/downloads からダウンロードすることができます。

重要

Clarett+インターフェースシリーズは、4つのモデルで構成され、そのうち3機種 (Clarett+ 2Pre、Clarett+ 4Pre、Clarett+ 8Pre) で、Focusrite Controlを使用します。各モデルの基本的な違いは、搭載される入出力と、Focusrite Controlから直接コントロールできる機能の数です。

本ユーザーガイド内にあるスクリーンショットは、Clarett+ 8Pre使用時の画面ですが、すべての操作手順は、Clarett+ 2PreおよびClarett+ 4Preにも適用されます。

システム要件

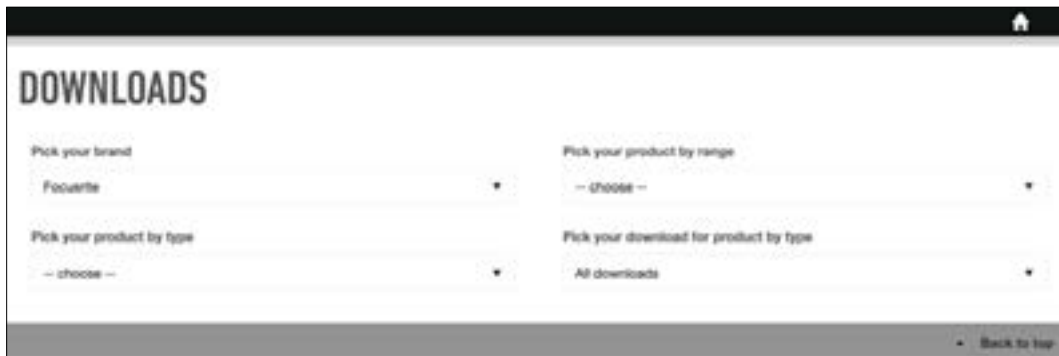
重要

Focusrite ControlとClarett+全製品に対応するコンピュータとオペレーティングシステムに関する最新情報は、以下のリンク先をご覧ください。

support.focusrite.com

ソフトウェアのインストール

WindowsおよびMac用のFocusrite Controlは、Focusriteのウェブサイト (focusrite.com/downloads) よりダウンロードできます。



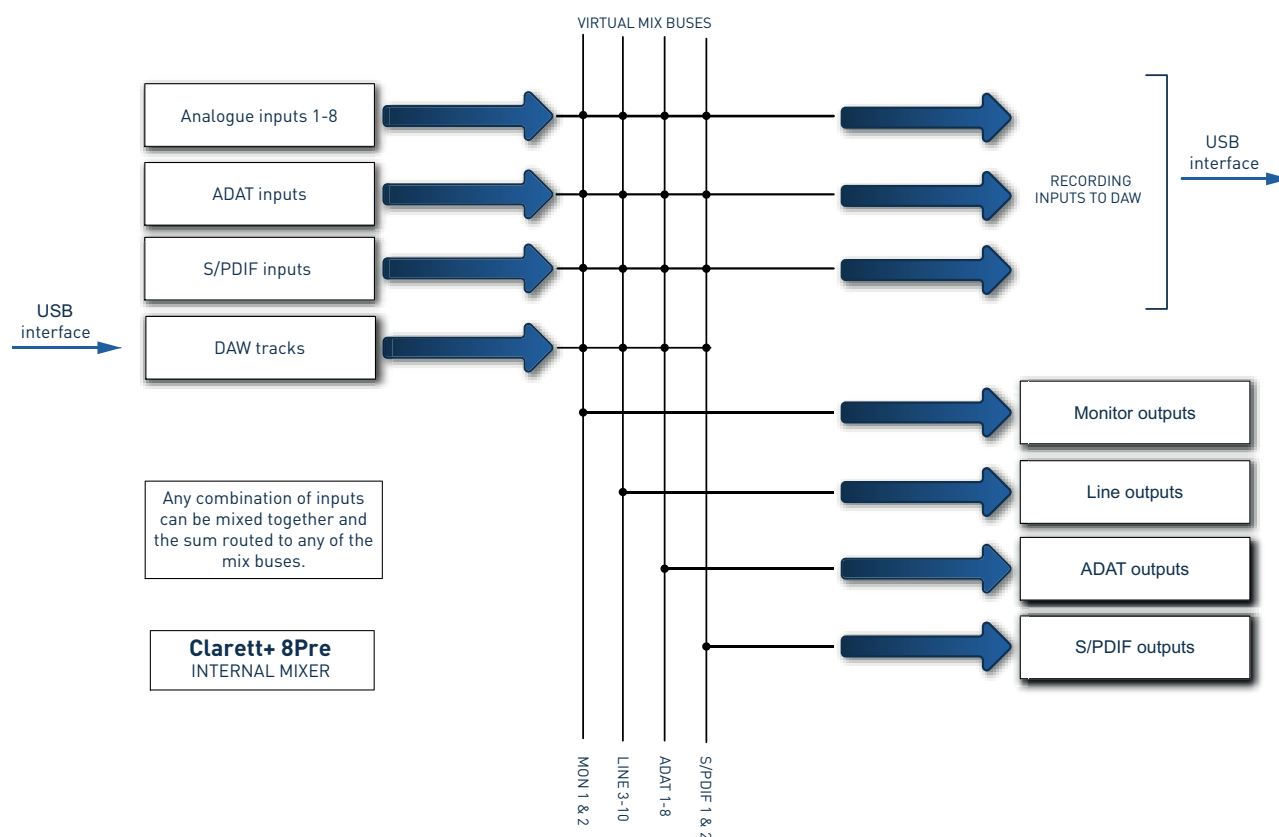
1. お使いのClarett+インターフェイスをドロップダウンメニューから選択します。WindowsおよびMac版のFocusrite Controlのダウンロードリンクが表示されます。
2. 使用するバージョンのFocusrite Controlをダウンロードし、画面の指示に従いインストールを行います。
3. WindowsにFocusrite Controlをインストールする場合は、インストール完了後、コンピュータの再起動が必要です。
4. 再起動後、Clarett+インターフェイスをUSBケーブルでコンピュータに接続します。
5. Focusrite Controlを起動すると、Clarett+インターフェイスに接続されます。

Clarett+ミキサー – 基本原則

Clarett+インターフェースは、オーディオミキサーを内蔵しています。このミキサーを使用することで、様々なオーディオソースによる複数のミックスを作成でき、それらをインターフェースの出力部に送ることができます。ミックスには、DAWに録音済みのトラックや、インターフェースの入力部に接続したライブ入力ソースなどを使用できます。Focusrite Controlを使用する前に、このミキサーの基本的な使い方を理解することをお勧めします。

オーディオミキサーの基本的な概念に関してはすでにご存知の方も多いでしょう。つまり、入力された複数の信号ソースが、少数の出力(時にはステレオペア)にまとめられる仕組みです。従来のアナログハードウェアミキサーは、たくさんの入力チャンネルを備え、それぞれにフェーダーや各種コントロールが搭載されます。また、チャンネルごとにスイッチを切り替えることで、信号の送信先を個別に指定できます。これを「ルーティング」と呼びます。

Clarett+のミキサーは、このような一般的なミキサーと同じ仕組みで動作します。インターフェースが備える入力部に加えて、DAWトラックがミキサーに入力され、インターフェースの出力部から出力されます。下図は、Clarett+ 8PreのClarett+ミキサーの仕組みを示したものです。



重要

Clarett+シリーズの最大ミキシング能力は、18モノラル入力/10モノラル出力です。

176.4kHz および 192kHz の場合、ミキサー機能は無効となります。

Focusrite Control ではコンピュータの画面上でミキサーが視覚的に表示されます。

OUTPUT ROUTING PAGE ページ



コンピュータにFocusrite Controlをインストールすると、ドックまたはデスクトップ上にFocusrite Controlアイコンが表示されます。

アイコンをクリックしてFocusrite Controlを起動します。以下のような画面が表示されます。



注記

上記のような画面ではなく、**No Hardware Connected**という警告メッセージが表示された場合、コンピュータがハードウェアとの接続を確認できなかったことを意味します。

その場合は以下の事項を確認してください。

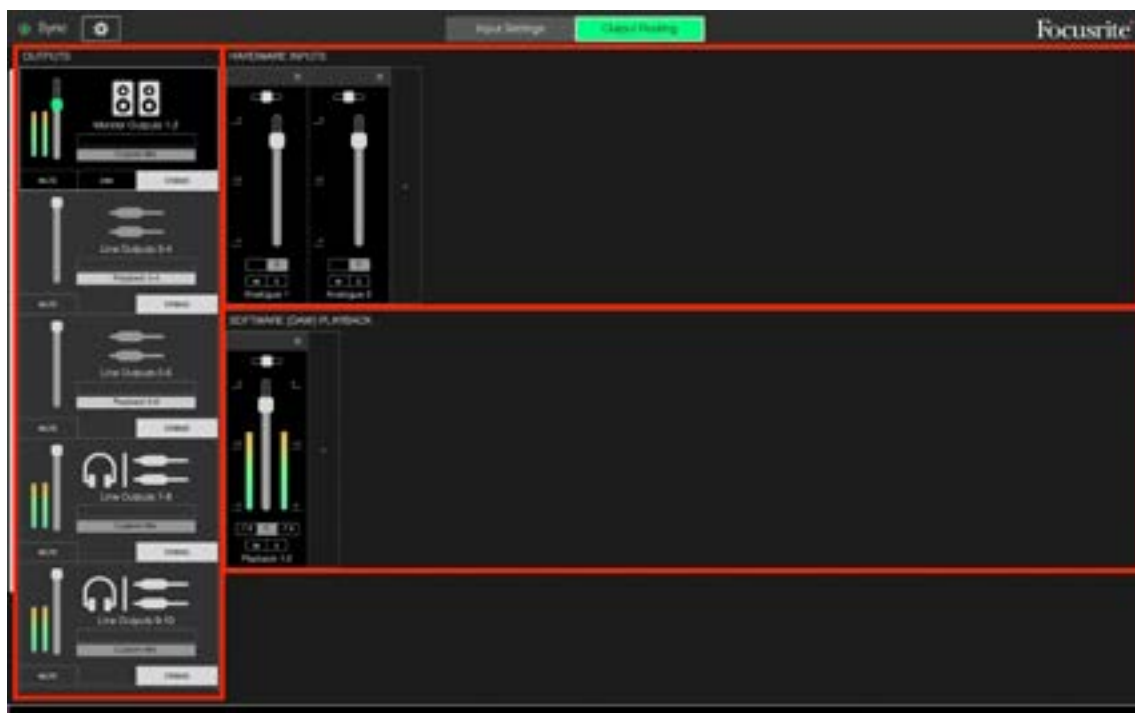
- USB ケーブルの両端が適切に接続され、ケーブルまたはコネクタのどこにも損傷がないこと。
- Clarett+インターフェースの電源が入っていること。
- 上記を確認しても**No Hardware Connected**のメッセージが消えない場合は、support.focusrite.comまでお問い合わせください。

画面左上のSync LEDが緑色に点灯していることで、Clarett+デバイスが有効なクロックソースでロックされていることを確認できます。詳細はページ28をご参照ください。

ミキサーの構成とコントロール

注記

ソフトウェアを効果的にお使いいただくために、Focusrite Control上ではツールチップを利用できます。画面内の各部にカーソルを重ねると、そのコントロールの詳細がウィンドウ下部のステータスバーに表示されます。



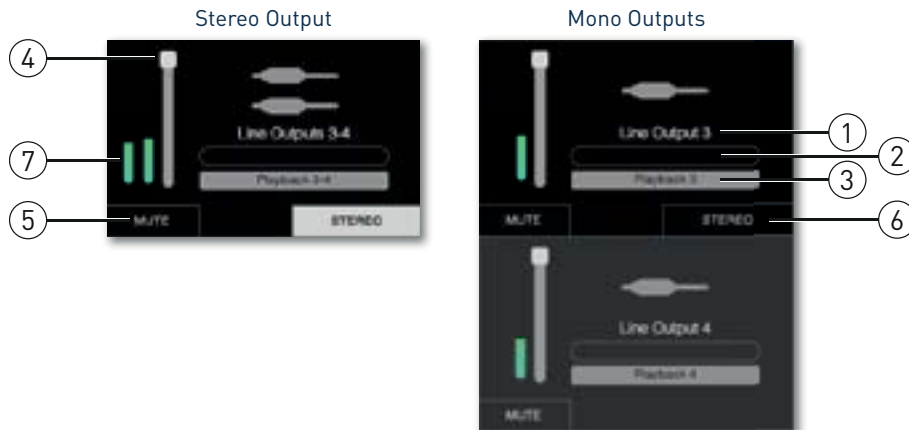
Focusrite Controlは、**Input Settings**と**Output Routing**の2画面になります。ページの切り替えは、ウィンドウ上部のタブで行います。ほとんどの場合、**Output Routing**ページを使用します。

Output Routingページは、以下の3つのエリアで構成されています。

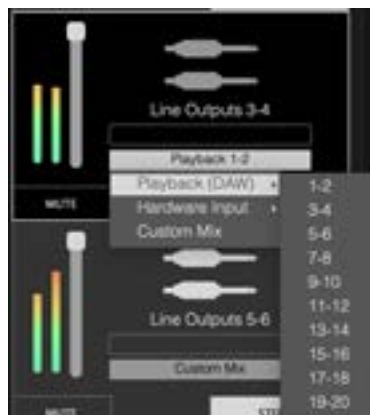
- **OUTPUTS**: 画面左側で縦方向に配置されています。
- **HARDWARE INPUTS**: 右側の上半分に配置されています。
- **SOFTWARE (DAW) PLAYBACK**: 右側の下半分に配置されています。

Output セクション

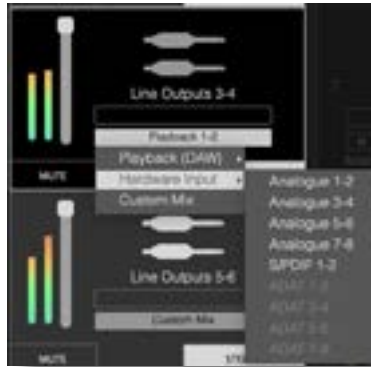
OUTPUTS はスクロール可能な縦のバーで構成されています。お使いのインターフェースに画面で1度に表示できる数以上の出力がある場合、下方向にスクロールして他の出力を確認します。各出力(ステレオモードの場合は出力ペア)にはそれぞれ以下の機能が備わっています。



1. 出力識別子 (**Line Outputs 3-4** など)とアイコン - 出力名が表示されるとともに、アイコンが表示されます。スピーカー、ヘッドフォン、ジャックプラグ、フォノプラグ、Toslink のアイコンが用意されています。
2. 出力名 - このフィールドをクリックして、出力先などの名前を最長11文字で入力できます。
3. 現在のソース - このフィールドには、現在出力されているソース名が表示されます。多くのセットアップ(特にFocusrite Controlのプリセットを使用している場合)では、1つの入力またはステレオペア入力がデフォルトで設定されます。フィールドをクリックすると、ドロップダウンリストが表示され、以下のいずれかを選択できます。
 - **Playback (DAW)** - DAWトラックを直接出力にルーティングします(出力がステレオの場合はペア)。



- **Hardware Input** – 選択したClarett+のハードウェア入力部が、出力部に直接ルーティングされます。注意：フィードバックループが生じるため、モニターからマイク信号を出力中は、このオプションを選択しないでください。



- **Custom Mix** – 選択した出力に対して利用可能な全ての入力（ハードウェアと DAW からの入力の両方）を使ってカスタムでミックスを作成できます。注意：5つのカスタムミックスがすでに割り当てられている場合はこのオプションを利用できません。

出力ソース選択を変更すると、ウィンドウ右側にルーティングを示す図が表示されます。1対1のシンプルなルーティングの場合、グラフィックは以下のようになります。



4. **フェーダー** – フェーダーを使用して出力部のレベルを調節します。デフォルトではすべての出力レベルが最大（ユニティゲイン）に設定されていますのでご注意ください。フェーダーのつまみが緑色の場合は、出力レベルのコントロールがClarett+フロントパネルの**MONITOR**コントロールに割り当てられていることを示します。この設定は**Input Settings**ページで変更できます。詳細は、ページ26をご参照ください。
5. **MUTE** – このボタンをクリックして出力のミュートのオンオフを切り替えます。
6. **STEREO** – 出力をステレオペアのどちらか一方またはモノラル出力に割り当てます。ステレオモードでは、すべての出力機能がステレオペアを形成する両方の出力に適用されます。

7. メーター：出力でのオーディオレベルを示すバーグラフメーター（ステレオ操作用に構成される場合2つ）が表示されています。出力レベルがオーバーロードしクリッピングが発生している場合、赤く表示されます。このアイコンはメーターバーのエリアをクリックするか、**File** メニューの **Clear all meters** を選択することで非表示にできます。

上記の機能と同時に、モニター出力にはさらに **DIM**ボタンが備わっています。有効にすると、信号レベルが18 dB分下がります。

Input セクション

Input セクションは **HARDWARE INPUTS** と **SOFTWARE (DAW) PLAYBACK** の2つの部分に分かれています。それぞれで、選択された出力でミックスされる入力信号をコントロールします。

Clarett+では、各出力ごとに異なるミックスを構成でき、内部ミキサーで可能なだけの多くのミックスを作ることができます。それぞれ好みに合わせたバランスのミックスを個々に作成できるため、複数人でレコーディングを行う際に非常に便利です(人数分のヘッドフォンとヘッドフォンアンプが必要です)。該当する出力タブをクリックして入力チャンネルを表示したいミキサーを選択します。

重要

Custom Mixを出力に設定すると、Custom Mixを選択したすべての出力に同じチャンネルが表示されます。

構成チャンネルは同じですが、フェーダーレベルやミュート、ソロは各出力でそれぞれ変更できます。

前述の例のように、シンプルな1対1によるFocusrite Controlのデフォルトのルーティング設定で十分な場合もあり、ここでは、DAWの出力がClarett+インターフェースのハードウェア出力に直接ルーティングされます(ユニット内でのミキシングが不要な場合など)。しかし、カスタムミックスを作成したい場合は、まず出力タブを開き、ミックスを送信したいソースのボタンをクリックしてから、**Custom Mix**を選択します。現在表示されている出力用のルーティング設定が消去され、入力ミックスのエリア(空の状態)が表示されます。



そして2つの「+」タブをクリックすると、選択中の出力を送るミキサーを構成することができます。選択ボックスが表示され、**HARDWARE INPUTS**には、Clarett+の全てのハードウェア入力のリストが表示されます(お使いのClarett+デバイスで使用可能なハードウェア入力の詳細は、ページ14をご参照ください)。**SOFTWARE (DAW) PLAYBACK**には、使用可能なDAWトラックのリストが表示されます。この手順を繰り返すことで、お使いのClarett+ハードウェアのチャンネルを最大数まで追加できます。注意:チャンネル数がウィンドウのサイズを超えた場合、ウィンドウのリサイズやスクロールバーを使用する必要があります。

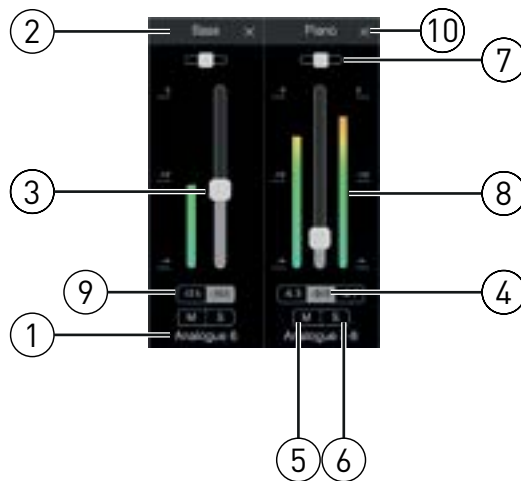


注意：両方のボックスでは各入力が個別のモノラル、またはステレオペアの半分として2回リストされます。入力のステレオペアを選択すると、ステレオ入力チャンネルが作成されます。



上記の例は、オーバーダブを行う場合の設定で、幾つかのDAWトラックがすでに録音され、さらに2つの新規トラックをレコーディングしながら1人のミュージシャンに対してステレオミックスを行っていきます。

各入力チャンネルには以下の特徴があります。



1. 入力識別子 - チャンネルに入力されている実際の入力です。
2. チャンネル名 - このフィールドをクリックして、分かりやすい名前 (楽器の名前など) を最長11文字で入力することができます。
3. フェーダー - ミックスの信号レベルを調整するためのフェーダー。注意: デフォルトではすべてのフェーダーが0 dBに設定されていますが、フェーダーの最大値は+6 dBです。フェーダーをダブルクリックすると、フェーダーレベルが0 dBにリセットされます。
4. フェーダー値 - 現在のフェーダーの数値を示します。
5. **M** - このボタンをクリックしてチャンネルのミュートのオンオフを切り替えます。
6. **S** - ソロボタン。ミックス内の他のすべてのチャンネルをミュートし、ソロが有効のチャンネルだけを再生します。
7. パンスライダー。このコントロールは、ミックスがステレオ出力にルーティングされている時のみ利用できます。デフォルトでは中央に設定されており、チャンネルの信号はステレオペアの両方の出力に同じレベルで送られます。スライダーをどちらかの方向に動かすと、一方の信号よりも高い信号をもう一方の出力に送り、個々の楽器をステレオイメージ上で配置できるようにします。スライダーをダブルクリックすると、中央の位置にリセットされます。
8. 信号レベルメーター。チャンネルに入力される信号レベルを示します (プリフェーダー)。dBFS単位で表示され、最大値は0 dBFSとなります。0 dBFSレベルを超えるとデジタルクリッピングが生じるため、必ずレベルを調節してください。ステレオチャンネルの場合、フェーダーの両隣に左右チャンネルのメーターが表示されます。
9. ピークレベル表示 - 達した信号レベルの最大測定数値。ステレオチャンネルでは2つのディスプレイが表示されます。
10. 削除 - バツ印をクリックすると、すべてのカスタムミックスから信号が削除され、チャンネル表示の画面が閉じます。

Clarett+シリーズで使用できるハードウェア入力

Clarett+インターフェースは、豊富なオーディオ入力を備えておりますが、使用可能な入力数は選択するサンプルレートによって異なります（詳細は、ページ27をご参照ください）。サンプルレートを2倍にすると、使用できるADATチャンネルの数が半分になります。以下の表は、異なるサンプルレートで使用可能な入力数を示しています。

44.1 kHz - 48 kHz			
入力	Clarett+ 8Pre	Clarett+ 4Pre	Clarett+ 2Pre
1	アナログ入力1	アナログ入力1	アナログ入力1
2	アナログ入力2	アナログ入力2	アナログ入力2
3	アナログ入力3	アナログ入力3	S/PDIF入力1*
4	アナログ入力4	アナログ入力4	S/PDIF入力2*
5	アナログ入力5	アナログ入力5	ADAT入力1
6	アナログ入力6	アナログ入力6	ADAT入力2
7	アナログ入力7	アナログ入力7	ADAT入力3
8	アナログ入力8	アナログ入力8	ADAT入力4
9	S/PDIF入力1	S/PDIF入力1	ADAT入力5
10	S/PDIF入力2	S/PDIF入力2	ADAT入力6
11	ADAT入力1	ADAT入力1	ADAT入力7
12	ADAT入力2	ADAT入力2	ADAT入力8
13	ADAT入力3	ADAT入力3	
14	ADAT入力4	ADAT入力4	
15	ADAT入力5	ADAT入力5	
16	ADAT入力6	ADAT入力6	
17	ADAT入力7	ADAT入力7	
18	ADAT入力8	ADAT入力8	

* Clarett+ 2PreのオプティカルS/PDIF入力。

88.2 kHz - 96kHz			
入力	Clarett+ 8Pre	Clarett+ 4Pre	Clarett+ 2Pre
1	アナログ入力1	アナログ入力1	アナログ入力1
2	アナログ入力2	アナログ入力2	アナログ入力2
3	アナログ入力3	アナログ入力3	S/PDIF入力1*
4	アナログ入力4	アナログ入力4	S/PDIF入力2*
5	アナログ入力5	アナログ入力5	ADAT入力1
6	アナログ入力6	アナログ入力6	ADAT入力2
7	アナログ入力7	アナログ入力7	ADAT入力3
8	アナログ入力8	アナログ入力8	ADAT入力4
9	S/PDIF入力1	S/PDIF入力1	
10	S/PDIF入力2	S/PDIF入力2	
11	ADAT入力1	ADAT入力1	
12	ADAT入力2	ADAT入力2	
13	ADAT入力3	ADAT入力3	
14	ADAT入力4	ADAT入力4	

* Clarett+ 2PreのオプティカルS/PDIF入力。

176.4kHz - 192kHz			
入力	Clarett+ 8Pre	Clarett+ 4Pre	Clarett+ 2Pre
1	アナログ入力1	アナログ入力1	アナログ入力1
2	アナログ入力2	アナログ入力2	アナログ入力2
3	アナログ入力3	アナログ入力3	
4	アナログ入力4	アナログ入力4	
5	アナログ入力5	アナログ入力5	
6	アナログ入力6	アナログ入力6	
7	アナログ入力7	アナログ入力7	
8	アナログ入力8	アナログ入力8	
9	S/PDIF入力1	S/PDIF入力1	
10	S/PDIF入力2	S/PDIF入力2	

プリセットの使用

Focusrite Controlには、素早くレコーディングタスクに取り掛かれるよう便利なプリセットが幾つか用意されています。プリセットを選択すると、ミキサーの入力チャンネルが使いやすい組み合わせで読み込まれます。

プリセットは、ファイルメニューのドロップダウンリストから選択します。以下の表示は、Clarett+ 8Preで使用可能なプリセットを示しています。



Direct Routing

複雑なミキシングセッションでは、ハードウェアのミキシングコンソールを用いて最終的なミックスを行う方が望ましい場合もあります。ダイレクトルーティングは、このようなタスクに対応するプリセットで、DAWの再生トラックが全てのClarett+の出力に順にルーティングされます。



以下の表は、各Clarett+シリーズのダイレクトルーティング接続を示しています。

44.1 kHz - 48 kHz			
DAW トラック	Clarett+ 8Pre	Clarett+ 4Pre	Clarett+ 2Pre
1	アナログ出力1	アナログ出力1	アナログ出力1
2	アナログ出力2	アナログ出力2	アナログ出力2
3	アナログ出力3	アナログ出力3	アナログ出力3
4	アナログ出力4	アナログ出力4	アナログ出力4
5	アナログ出力5	アナログ出力5	
6	アナログ出力6	アナログ出力6	
7	アナログ出力7	S/PDIF出力1	
8	アナログ出力8	S/PDIF出力2	
9	アナログ出力9		
10	アナログ出力10		
11	S/PDIF出力1		
12	S/PDIF出力2		
13	ADAT出力1		
14	ADAT出力2		
15	ADAT出力3		
16	ADAT出力4		
17	ADAT出力5		
18	ADAT出力6		
19	ADAT出力7		
20	ADAT出力8		

88.2 kHz - 96 kHz			
DAW トラック	Clarett+ 8Pre	Clarett+ 4Pre	Clarett+ 2Pre
1	アナログ出力1	アナログ出力1	アナログ出力1
2	アナログ出力2	アナログ出力2	アナログ出力2
3	アナログ出力3	アナログ出力3	アナログ出力3
4	アナログ出力4	アナログ出力4	アナログ出力4
5	アナログ出力5	アナログ出力5	
6	アナログ出力6	アナログ出力6	
7	アナログ出力7	S/PDIF出力1	
8	アナログ出力8	S/PDIF出力2	
9	アナログ出力9		
10	アナログ出力10		
11	S/PDIF出力1		
12	S/PDIF出力2		
13	ADAT出力1		
14	ADAT出力2		
15	ADAT出力3		
16	ADAT出力4		

176.4 kHz - 192 kHz			
DAW トラック	Clarett+ 8Pre	Clarett+ 4Pre	Clarett+ 2Pre
1	アナログ出力1	アナログ出力1	アナログ出力1
2	アナログ出力2	アナログ出力2	アナログ出力2
3	アナログ出力3	アナログ出力3	アナログ出力3
4	アナログ出力4	アナログ出力4	アナログ出力4
5	アナログ出力5	アナログ出力5	
6	アナログ出力6	アナログ出力6	
7	アナログ出力7	S/PDIF出力1	
8	アナログ出力8	S/PDIF出力2	
9	アナログ出力9		
10	アナログ出力10		

プリセットで従来のアナログコンソールを最大限にご利用いただくには、適切な ADAT 搭載の D/A コンバータおよび S/PDIF 入力があった2チャンネル D/A コンバータが必要です。ただし、最新のデジタルミキサーの多くは ADAT および S/PDIF 信号とアナログソースを直接受け取ることができます。

2 Channel Analogue

このプリセットは、Clarett+をアナログレコーディングの「フロントエンド」として使用する際に有効です。このプリセットでは、アナログ入力1と2が**HARDWARE INPUT**に、DAWトラック1と2がステレオチャンネルとして**SOFTWARE (DAW) PLAYBACK**に割り当てられ、ミックスを構成します。

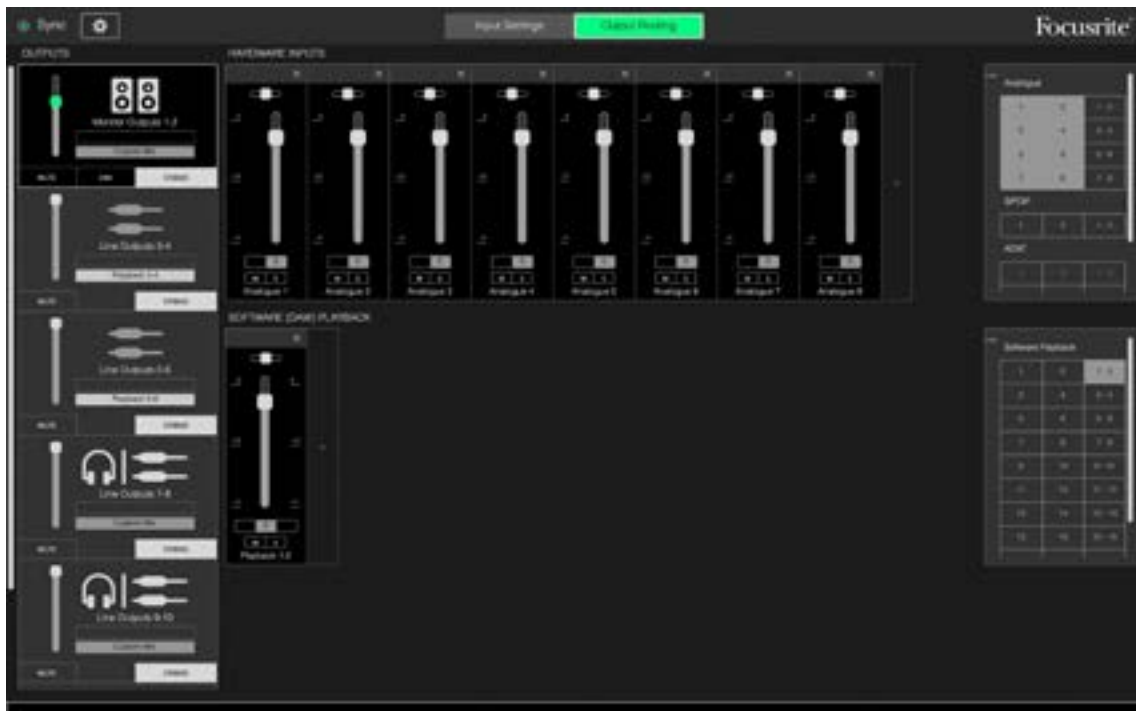
例えばClarett+ 8Preの場合は、このミックス信号がモニター出力1と2、ライン出力7と8、ライン出力9と10にステレオペアとしてルーティングされます。このモデルでは、フロントパネルのヘッドフォン出力1と2からは、ライン出力7/8およびライン出力9/10の信号がそれぞれ出力されます。これは、DAWに録音済みのドラムトラックにギターとボーカルをそれぞれにレコーディングする際に理想的な設定で、ドラムとのミックスを個別に行うことが可能です。



Clarett+のその他の全ての出力は、ページ17のダイレクトルーティングの表に従い、対応するDAWの再生トラックから直接出力されます。

8 Channel Analogue

バンド編成のレコーディングには、このプリセットを使用すると良いでしょう。Clarett+ 8Preでこのプリセットを読み込むと、全てのハードウェアアナログ入力に対応する8つのミキサーチャンネルと、DAWトラック1と2のステレオチャンネルで構成されたミックスが表示されます。

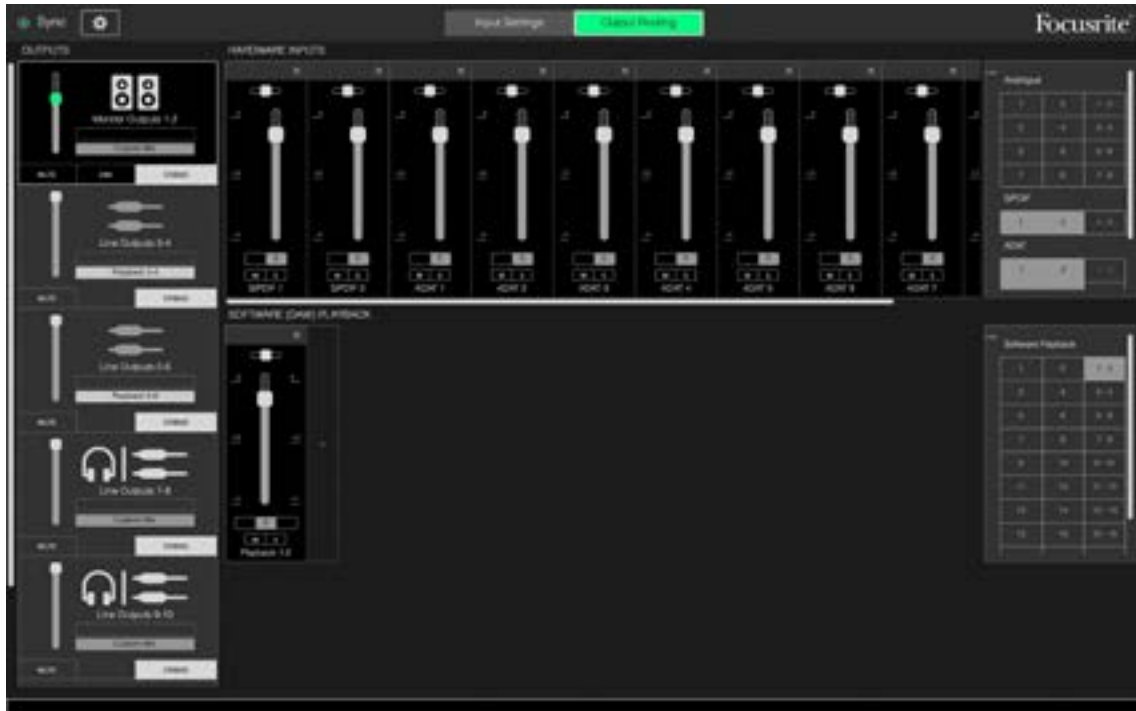


2 Channel Analogue プリセットでは、まとめられたミキサーの出力がモニター出力1と2、および、ライン出力7～10にステレオペアとしてルーティングされます。

Clarett+のその他の全ての出力は、ページ17のダイレクトルーティングの表に従い、対応するDAWの再生トラックから直接出力されます。

Digital

このプリセットは、Focusrite Clarett+ OctoPreなどADAT出力を搭載する外部マイクプリアンプを使用する場合に便利です。Clarett+ 8Preと併用することで、10系統のデジタル入力チャンネルを使用できます。そのうち8系統はADAT入力から、2系統はS/PDIF入力から供給されます。またDAWトラック1と2も、ステレオチャンネルとして使用できます。前述のアナログプリセットの説明と同様に、まとめられた入力は同じ出力ペアにルーティングされます。



Clarett+のその他の全ての出力は、ページ17のダイレクトルーティングの表に従い、対応するDAWの再生トラックから直接出力されます。

Empty

必要に応じて独自のミキサー構成を構築できるよう既存のミキサーの設定を消去する便利なプリセット機能です。

Clarett+ 8Preでは、モニター出力1と2およびライン出力7~10(ヘッドフォン出力と並列)がカスタムミックスを受信するよう設定されます。その他すべての出力は、他のプリセットと同様に個別のDAWトラックから供給されます。

使用例

レコーディングとトラック

Focusrite Controlでの操作方法は、バンド編成のレコーディングもソロのレコーディングも、基本的に同じです。画面に表示されるミキサーのチャンネル数のみが、唯一の違いとなります。

Clarett+インターフェースに録音する楽器を接続します。楽器やマイクは、それぞれUSBケーブルを経由してDAWに送信されて録音されます。デフォルトでは、ハードウェア入力と同じ数のトラックに録音されます。Clarett+のフロントパネルにあるゲインコントロールで、レコーディングレベルの調整が可能です。必要に応じて、DAWでトラックの割り当てを変更することができます。

Focusrite Control を使用して、録音されているものすべてをモニターミックスすることが可能です。モニターまたはヘッドフォンで聞くミックスは、録音された信号レベルとは完全に独立したものにカスタムすることができます。

Focusrite Control の全てのチャンネルはフェーダーのゼロ位置から開始されるので、全ての接続が完了するとただちにラフミックスを聞くことができます。その後でユーザーの希望に合わせてミックスの構成を変更することも可能です。



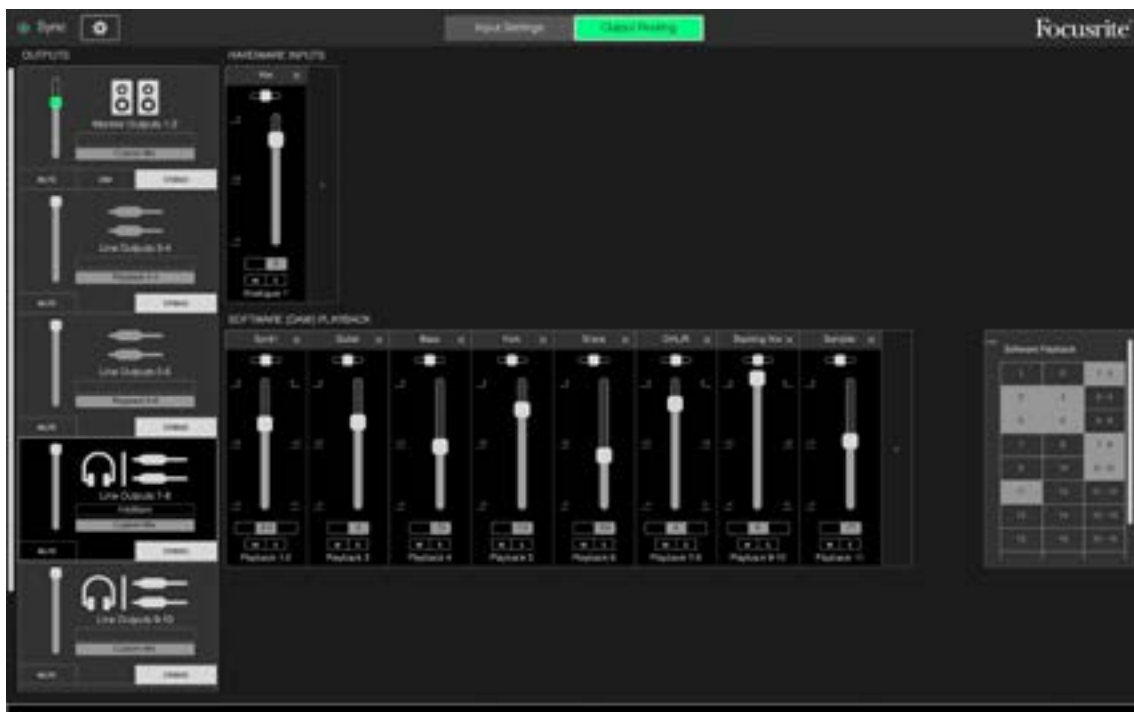
読み込むプリセットに関わらず、ヘッドフォン出力からはメインのモニター出力と同じミックスが出力されます。ただし、それらは独立しており個別にコントロールが可能です。例えば、ミュージシャンのモニター用にヘッドフォンを使う場合は、異なるミックスを構成できます。

ヘッドホン出力のタブを選択して(上記の画面はClarett+ 8Preの例としてLine Out 7-8を表示)ミックスを変更できます。また、別のライン出力タブを使用してCustom Mixを選択すると、他のミュージシャン用のモニターミックスも作成することが可能です。

レコーディングとオーバーダビング

オーバーダビングとは、録音済みのトラックを再生しながらマルチトラックのプロジェクトに楽器を追加で録音するプロセスを指します。

Focusrite Control では、オーバーダビングを行うための構成を簡単に実行できます。



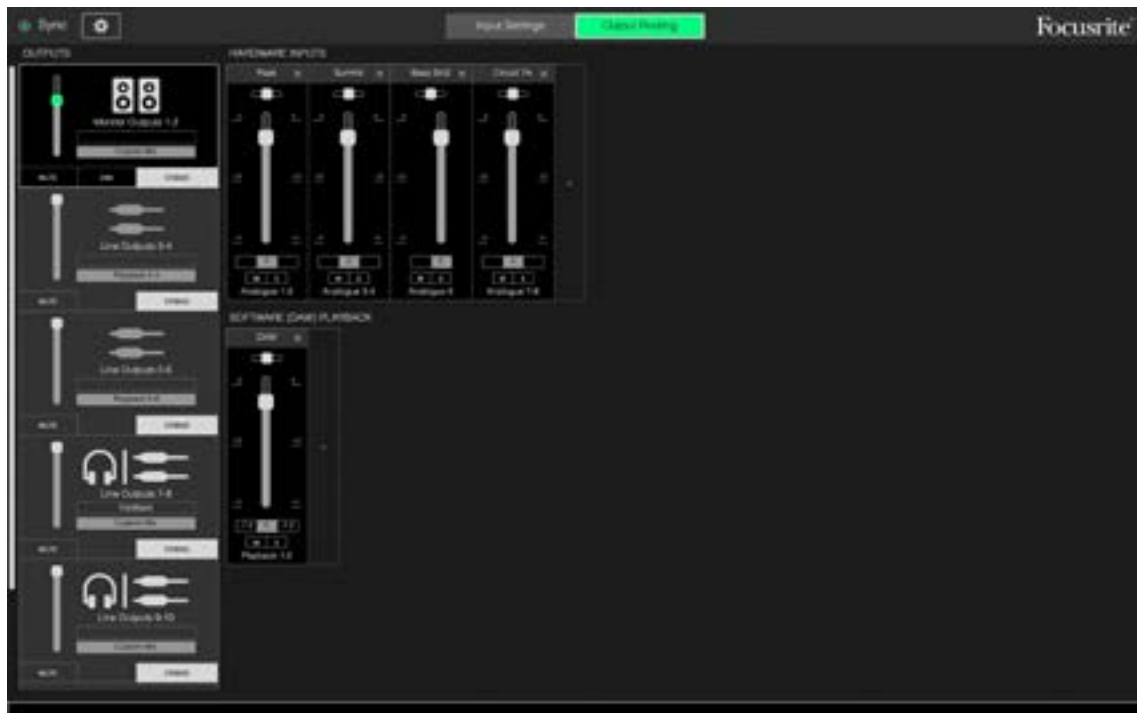
トラックの例と同様に、モニター出力とヘッドフォン出力の両方から聞こえる最初のミックスは、すでに録音したトラックすべての「ラフ」ミックス（フェーダーがゼロ位置）の状態です。必要に応じて、ヘッドフォンから聞こえるオーバーダビング中の楽器や録音済みの他のトラックの音量を調整することが可能です。

ヒント:録音済みのトラックがDAWのメイン出力（1～2）から出力され、この信号はFocusrite ControlのSoftware Playback 1-2に表示されます。ミュージシャンに送信する信号レベルを調整する場合はDAW上で行い、また、DAW内のミックスを変更しない場合は、別の出力から送信した後にFocusrite Control内でレベル調整を行います。

スタンドアロンのミキサーとしての使用

Focusrite Controlでインターフェースの内部ミキサーを構成すると、USBケーブルを抜いて機器の電源を切っても、その構成は本体に記憶されています。つまり、コンピュータに接続していなくてもClarett+をライブパフォーマンスで使用することができます。

この例では、ステージ上のキーボードのミキサーとして使用しています。複数のキーボードをClarett+に接続し、ミックスをモニター出力に送ることが可能です。それぞれのキーボードの相対的なレベルは、フロントパネルで調整することができます。サウンドエンジニアには各楽器それぞれの信号ではなく、ミックスされたステレオ信号を送ることができます。



このような場合、ミキサーを上記の画面のように設定します。Clarett+は本体の電源を切っても最後の設定を記憶するため、現場でスタンドアロンとしての使用が可能です。

スナップショット機能

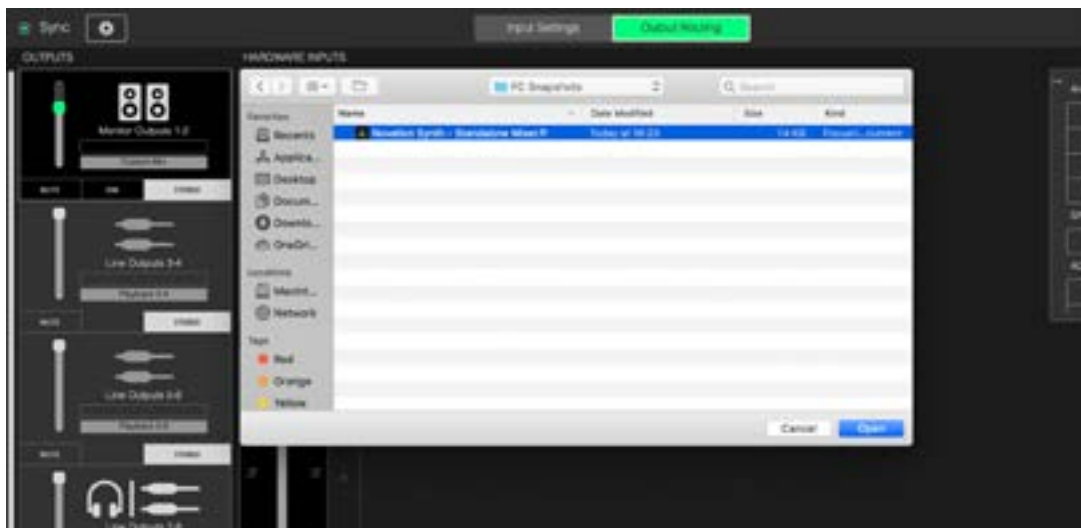
Clarett+インターフェース内のミキサーは、Focusrite Controlで行われた最後の設定を常に記憶します。しかし、似たようなプロジェクトでミキサー構成を再利用したい場合や、別の互換ハードウェアで作業する場合など、セッションの設定を保存したうえで、後からそのミキサーのレイアウト、フェーダー、ミュート、およびパンの設定に戻したい場合もあります。

そのようなときは、Focusrite Controlのスナップショット機能を使用すると便利です。この機能では、ミキサー全体の「スナップショット」をお使いのコンピュータに保存し、後から呼び出すことができます。

現在のミキサーの設定を保存する場合には、**[File] > [Save Snapshot]** をクリックします。



スナップショットのセッションファイルは、*.fff 拡張子で保存されます。セッションを呼び出す際には、**[File] > [Load Snapshot]** をクリックするとファイルを選択するウィンドウが現れるので、ファイルを保存した場所を選択し、開きます。

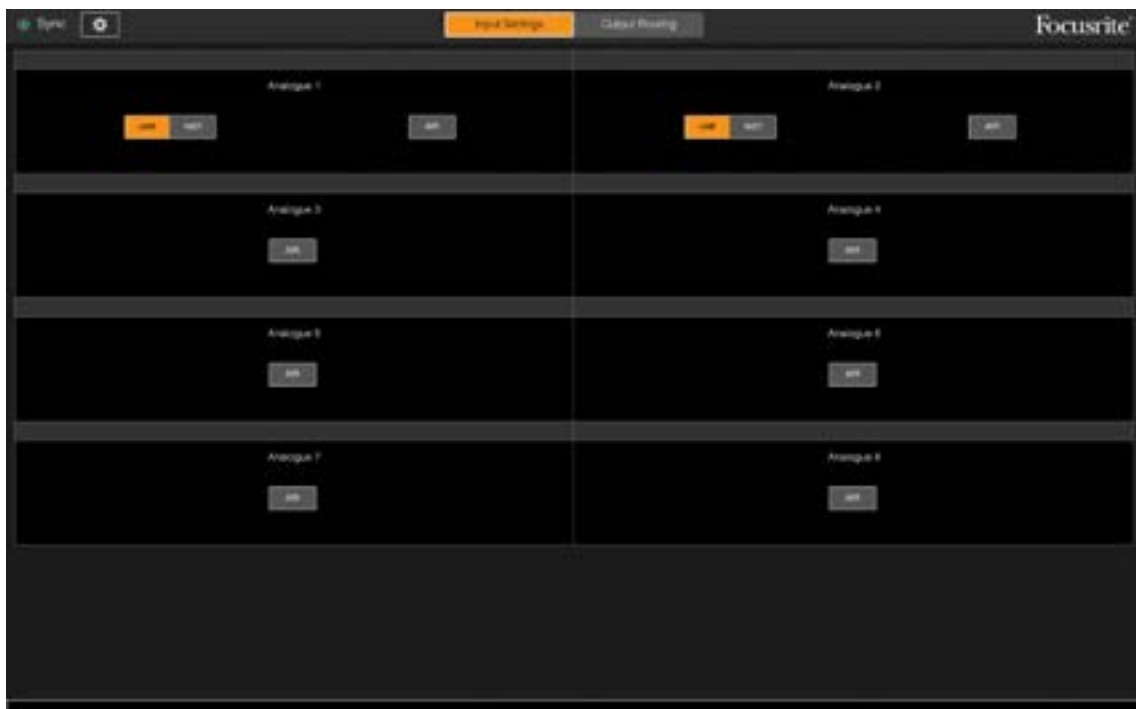


最後に使用したClarett+の設定は、自動的にFocusrite Controlに保存され、再接続時に機器に読み込まれます。

INPUT SETTINGS ページ

Focusrite Controlから操作すれば、Clarett+本体で行うよりも多くの機能をコントロールできます。

これらの機能には、**Input Settings**ページよりアクセスできます。Clarett+ 8Preでは以下のように表示されます。



他のClarett+シリーズをお使いの場合も、基本的な機能は同じです。ただし、インターフェースのチャンネル数が少ない分、表示されるボタン類も少なくなります。

AIR

Clarett+インターフェースの各入力チャンネルには、切り替え可能なアナログ回路によるAir機能があり、伝統的なFocusrite ISA 110プリアンプのサウンドをエミュレートします。詳細は、お使いのClarett+ユーザーガイドをご参照ください。

AIRボタンをクリックすることで、各チャンネルのAIR機能のオンオフを切り替えることができます。AIR機能を有効にすると、フロントパネルにある該当チャンネルのAIR LEDが点灯します。

Inst/Line


全てのClarett+インターフェースでは、入力1と2に楽器を直接接続できます。それらの入力チャンネルでINSTを選択すると、入力がアンバランス方式となり、ゲインレンジとインピーダンスが変更され、プリアンプがエレキギターなどの高インピーダンス入力用に最適化されます。

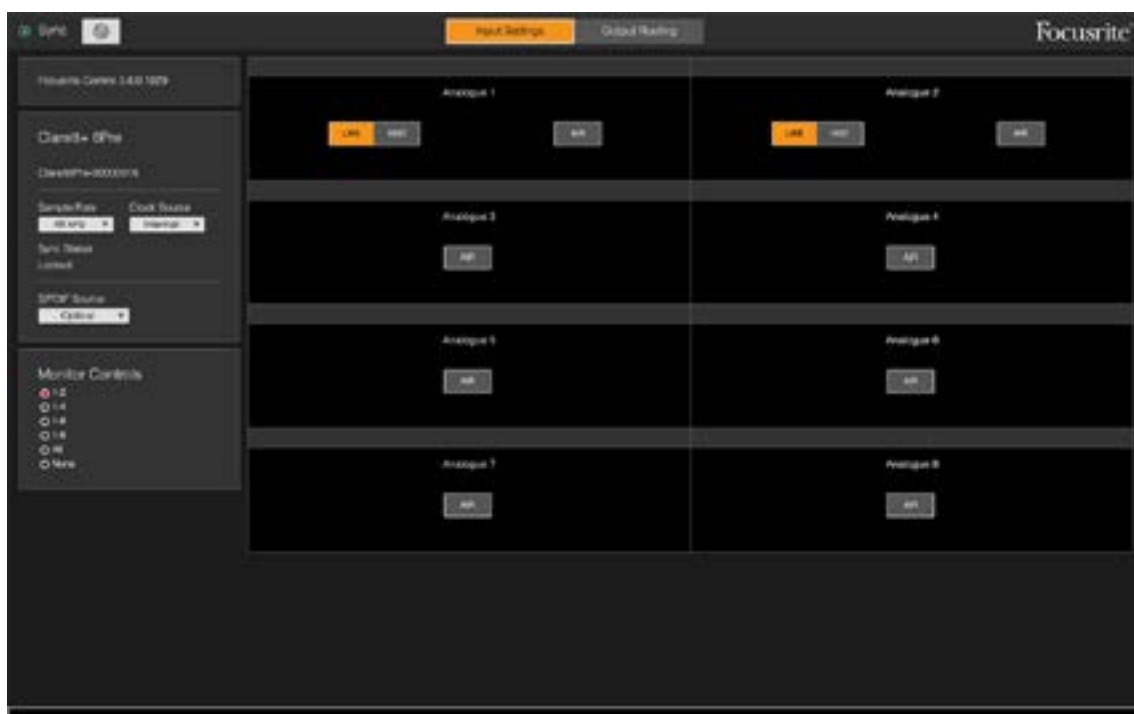
フロントパネルの赤色のLEDで、**INST** モードが選択されていることが確認できます。

スイッチを切り替えると、**LINE**モードになります。このモードでは、標準的なバランスラインレベル信号に適した入力になります。

インターフェースのすべてのチャンネルは、ダイナミックもしくはコンデンサーマイクに対応しています。コンボタイプのコネクタは、XLR プラグまたはジャックプラグのいずれかを感知し、マイクまたはラインの操作に自動的にプリアンプの再設定が行われます。INST 機能を持つチャンネルでは、同じコネクタを使用します。

DEVICE SETTINGS

歯車アイコン  をクリックすると、**Device Settings** パネルが画面左からスライドして表示されます。もう一度クリックするとパネルが閉じます。**Device Settings** パネルでは、ハードウェアインターフェースのあらゆるグローバル設定が可能です。これらの設定は、次に変更するまで有効となります。



サンプルレート



Clarett+インターフェースは、以下の6つのサンプルレートでの動作が可能です:44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz。デフォルトのサンプルレートは48kHzです。必要に応じてサンプルレートを選択してください。注意:176.4/192kHzのサンプルレートで動作中は、オプティカル入力が無効になります。

クロックソース



相互接続されたデジタルオーディオ機器は、常に同じクロックソースで動作しなければなりません。Clarett+インターフェースでは、以下の3つのソースに同期できます。

- **Internal** – 内部的に生成されたリファレンスクロック。デフォルトではこちらが選択されています。
- **S/PDIF** – S/PDIF IN コネクタに組み込まれたクロック信号。
- **ADAT** – OPTICAL IN コネクタに組み込まれたクロック信号。

選択するソースに関わらず、リアパネルにあるBNCソケット**WORD CLOCK OUT**からクロック信号が出力され、他のデジタル機器との同期に使用できます (Clarett+ 8Preのみ)。

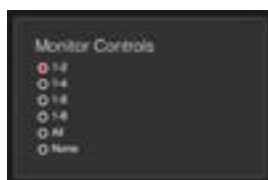
S/PDIF ソース

Clarett+ 4PreおよびClarett+ 8Preでは、S/PDIFの受信に使用するデジタル入力を変更できます。デフォルトでは、コアキシャルS/PDIFが使用されます。S/PDIFソースをオプティカルに変更することで、S/PDIF出力を搭載する家庭用機器 (ゲーム機、テレビなど) をClarett+に接続できます。

モニターコントロール

従来型のロータリーコントロールは、モニタリングボリュームを調整する際に非常に便利です。Clarett+ インターフェースには、フロントパネルに**MONITOR**コントロールがあります。通常は (デフォルトでは)、モニター出力1および2のレベルを調整し、また、MuteやDimの制御も行うことができます。

Clarett+の他の出力を別のスピーカー用 (ニアフィールド、LCRやサラウンドセットアップなど) に使用する場合は、ロータリーコントロールやミュート、DIMスイッチでスピーカー全体を制御できるように割り当てることも可能です。



オプションには以下のようなものがあります。

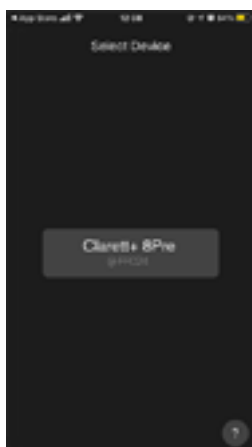
- 1-2 – モニター出力1と2 (デフォルト設定)
- 1-4 – モニター出力1と2およびライン出力3と4
- 1-6 – モニター出力1と2およびライン出力3～6
- 1-8 – モニター出力1と2およびライン出力3～8
- All – モニター出力1と2およびライン出力3～10
- None – ロータリーコントロール、ミュートおよび DIM スイッチは無効。出力レベルはソフトウェアのフェーダーで制御可能。

注意:出力7～8および9～10をモニターコントロールに割り当てると、ヘッドフォン出力と共有されているため、出力レベルに影響します。

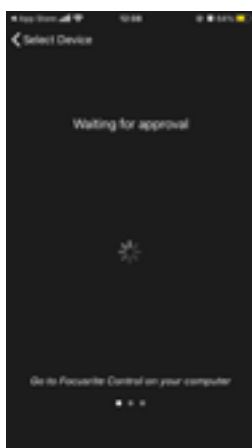
Output Routingページの出力タブでは、本体のロータリーコントロールに割り当てられた出力のフェーダーのつまみが緑色になります。このとき画面上のフェーダーは操作不可となり、それらの出力レベルは本体のフロントパネルから調整する必要があります。しかし、画面上のフェーダー位置や、ミュートおよびDIMのステータスは、本体の操作が反映されます。

iPhone & iPad用FOCUSRITE CONTROLアプリの設定

1. 最初に、Clarett+インターフェースがコンピュータに接続され、コンピュータ上のFocusrite Controlが起動されていることを確認します。
2. Focusrite ControlアプリをApple App Storeからダウンロードします。開発元は「*Ampify Music*」と表示されます。
3. Focusrite Controlアプリを開きます。
4. お使いのiOSデバイスが、Focusrite Controlアプリがローカルネットワーク上のデバイスを見つけ、接続する許可を求めてくる場合があります。その場合は、**OK**をタップして許可してください。
5. Focusrite Controlアプリが開き、ネットワーク上のFocusrite機器の検出を開始します。検出が完了すると、接続可能なFocusrite機器のリストが表示されます。



6. ご使用のClarett+インターフェースをタップします。**Waiting for approval**のメッセージが画面に表示されます。



7. コンピュータ上のデスクトップ版Focusrite Controlを開きます。
8. 左上の歯車アイコン  をクリックすると、設定パネルが表示されます。
9. **Settings**パネルの1番下に、**Remote Devices**というセクションがあります。ここにiOSデバイスが表示されます。**Approve**ボタンをタップして、iOSデバイスとClarett+をペアリングします。



10. iOSデバイスには、インターフェースの設定が表示されます。

Inputs セクション

Inputsセクションでは、Clarett+の入力設定を行うことができます。このセクションは、デスクトップ版Focusrite Controlの**Input Settings**ページに対応しており、同じ内容を確認できます。

各入力セクションの左上には、その入力メーターが表示されます。

Outputs セクション

Outputsセクションは、デスクトップ版Focusrite Controlアプリケーションの**Output Routing**ページに対応しています。

ここで、各出力の**Mute**および **Dim**の設定を行います。

Mixを押すと、ミックス内の各フェーダーレベル、パン、ミュート、ソロを調整できます。ミックスにチャンネルを追加したい場合は、デスクトップ版Focusrite Controlアプリケーションから行います。

Monitor Control セクション

Monitor Controlセクションを使うと、お使いのiOSデバイスをインターフェイスのモニターコントローラとして使用することができます。これは、インターフェイスに手が届かない場所からコントロールしたい場合に便利な機能です。

Mute、Dim、ミックス全体のレベル変更のほか、Mixボタンを押すことでミックス内の各フェーダーレベルの調整が可能です。

iOSアプリからレベルコントロールをリモートで調整したい場合は、デスクトップ版Focusrite Controlでモニター出力のハードウェアコントロールをオフにすることを忘れないでください。(ページ27参照)

トラブルシューティング

トラブルシューティングに関するお問い合わせは、Focusriteヘルプセンターsupport.focusrite.comにアクセスしてください。トラブルシューティングに関する記事が多数掲載されています。

著作権表示と法定通知

Focusrite、Clarett、OctoPreは、米国およびその他の国におけるFocusrite Audio Engineering Ltd.の登録商標です。

ADATは、米国および他の国におけるinMusic Brandsの登録商標です。

iOS、iPhone、iPad、App Storeは、米国およびその他の国や地域で登録されているApple Inc.の商標です。

USB Type-C®およびUSB-C®は、USB Implementers Forumの登録商標です。

2021 © Focusrite Audio Engineering Limited.無断転載禁止。